

■南丹市子どもの貧困対策整備計画の策定に向けて

【平成30年度南丹市子どもの貧困対策整備計画策定に係る実態調査の実施について（案）】

1 事業の趣旨・目的

多様かつ複合的な困難を抱える子どもや家庭に対し、確実に支援の対象とし、ニーズに応じた支援を適切に行うため、子どもの貧困に係る市内の実情を把握するための実態調査を実施する。

2 地域の実情と課題

子どもの貧困の実態が把握できておらず、事業施策展開が系統だっていない状況である。個別ケース事案において、福祉関係機関と教育機関（学校等現場）が連携し、課題解決のため家庭支援を展開しているが、必要かつ有効な施策展開、支援体制の整備を図っていく必要がある。

3 事業の概要（南丹市子どもの貧困対策整備計画策定に係る実態調査）

調査対象を就学前5歳児保護者、小学生5年生保護者及び児童、中学生2年生保護者及び生徒、生活保護受給世帯とひとり親世帯の保護者と同世帯の中学生、高校生とし、アンケートによる事態調査を実施。加えて行政や民間団体による支援の現状（資源量）を調査し、支援体制の整備計画策定の基礎資料を得る。

（1）実態調査

- ・調査対象と抽出方法：就学前5歳児（保護者）、小学5年生（児童・保護者）、中学2年生（生徒・保護者）、生活保護受給世帯（乳児から18歳の児童がいる保護者、同世帯の中学生、高校生）、ひとり親世帯（乳児から18歳の児童がいる保護者、同世帯の中学生、高校生）
- ・対象ごとの客体数：5歳児保護者約200人、小学5年生約250人、その保護者約250人、中学2年生約220人、その保護者約220人、生活保護受給世帯約30世帯（保護者及びその世帯の中学生・高校生最大60人）、ひとり親世帯約250世帯（保護者及びその世帯の中学生・高校生最大500人）を想定。合計約1,700人
- ・調査項目：保護者向け／暮らしの状況、家計の状況、悩み
児童向け／普段の生活、学校（勉強）のこと、悩み
- ・調査項目の検討・決定方法：子育て支援課を中心に社会福祉課、学校教育課等に連携し作成。南丹市子ども・子育て会議にて意見照会し修正。
- ・調査票回収方法：就学前5歳児保護者／幼稚園や保育所を通じて配布と回収。小学生児童、中学生生徒／学校で調査実施と回収。小学生、中学生保護者／配付回収とも学校。学校了解は9月頃予定。ひとり親世帯／発送回収とも郵送。生活保護受給世帯／発送回収とも郵送とケースワーカーの訪問を併用。（回収率50%を想定）

（2）資源量把握

- ・福祉、教育関係課調整会議構成員に対する庁内調査、地域の子育て支援団体、NPO法人（合計5団体）へのアンケート調査、ヒアリングの実施。

4 スケジュール

- ・平成 30 年 7 月 31 日 「南丹市子ども・子育て会議」で実態調査概要説明（趣旨、スケジュール案提示）
- ・同年 8 月 福祉、教育関係課調整会議（社会福祉課、子育て支援課、学校教育課を想定）で調査方法、調査項目検討
- ・同年 9 月 実態調査委託契約締結 アンケート調査票案作成
- ・同年 10 月 「南丹市子ども・子育て会議」でアンケート調査票について意見照会
- ・同年 11 月 アンケート調査票確定、印刷（委託）
- ・同年 11 月～12 月 アンケート調査実施
- ・同年 12 月～アンケート調査の結果集約、分析（委託）
資源量庁内調査、民間団体アンケート及びヒアリング調査（委託）
- ・平成 31 年 3 月 「南丹市子ども・子育て会議」で確認
調査報告書を作成（委託）

5 その他

上記の計画については、内閣府が公開している先進事例（人口 5 万人までの規模）を参考にしました。